

フォーラムニュース

特定非営利活動法人奈良21世紀フォーラム会報

2016年新春号 No.28

平成27年実施の主な事業

- 3月6日 (株)柿の葉すし本舗たなか会社見学会を開催
4月15日 土工房轆轤の会員作品展、チャリティーに協力
～9日
5月4日 宇和島伊達400年祭への参加
5月31日 春日大社第60次式年造替奉納蹴鞠(春季)の実施
7月7日 奥田の蓮取り行事と蔵王堂の蛙飛び行事見学

《以上 会報 No.27で報告》

- 9月28日 第一化工(株)会社見学会を開催
10月17日 第6回大仏書道大会を開催
～18日
10月25日 御杖村伊勢本街道宿場町ぶらぶら歩きツアー実施
11月3日 「源流まつり」in わかやま しらすまつりに参加
11月15日 春日大社第60次式年造替奉納蹴鞠(秋季)の実施

奈良県企業人列伝の冊子発行
2刊



年頭のご挨拶

理事長 堀井良殷

平成28年新春を迎え、世界の平和、日本の國家安寧と奈良21世紀フォーラム会員各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。いま世界はテロや難民問題に悩み、武力による脅迫や領土拡張など人間の愚かな行為が横行し未来を不安定にしています。

このような不安定な時には、自分ることは自分で守るという自立心が必要です。一人では何をするにしても限界がありますが、連携、連帯すれば不可能に見えた壁を越えることが出来るかも知れません。マララさんが言うように一本のペン、一冊の本、一人の行動が世界を変えることに繋がるかも知れないのです。

奈良県の歴史・文化や自然の魅力は日本人の心の原点であり、世界に広める普遍性を持っています。自然と共生する日本文化の可能性を引き出すことは、世界に貢献するとともに地域の活性化と自立につながってゆくと思います。

奈良21世紀フォーラムはこの1年、各位のご尽力で多くの成果を挙げることが出来ました。

春日大社第60次式年造替奉納蹴鞠、第6回大仏書道大会、歴史文化遺産の探訪、企業文化の見学と調査、企業人列伝の発刊、吉野川の水源地を守る活動支援、桜井記紀万葉歌碑原書展の後援など、いずれも奈良の伝統や文化を確認し、創造的に未来に引き継いでいく意義深い活動であったと思います。

課題としては老若男女各世代からのNPO活動への参加をさらに促進する必要があると感じます。特に女性の活躍が時代の要請となっています。新しい力も加えつつ、継続は力なりと申しますが、倦まず弛まずこの活動を継続してゆきたいと願っています。

今年も引き続き各位のご尽力とご支援をお願い申し上げます。

平成28年1月吉日



【平成27年9月から12月に実施した事業】

1. 万葉蹴鞠の保存

◎春日大社第60次式年造替奉納蹴鞠(秋季)の実施

平成27年度「記紀・万葉」県民活動支援補助金採択事業

祝 御造替奉納蹴鞠の宴 in 飛火野 一新たなる奈良県観光資源に—

11月15日(日)に春日大社第60次式年造替の奉祝行事として、日本の歴史を支えた藤原氏の神を祀る同大社において氏祖のゆかりある万葉蹴鞠の奉納を行いました。

出演者は社務所にて衣裳を整え、拝殿に拝礼後、蹴鞠の奉納を行いました。

この日は、七五三参りの参詣者で境内も大変な賑わいで、奉納蹴鞠を行う飯島正人さんの巧みな足技に見入っていました。時折、華麗な足技が決まるときには、参拝者から歓声が沸き上りました。

当日はあいにくの小雨模様で、予定していた飛火野会場での当フォーラム蹴足チームによる蹴鞠の披露や中学生チーム(YF奈良テソロポルベニルカシハラ)による蹴鞠競技ならびに一般来場者による蹴鞠体験は会場のコンディションが悪いため残念ながら取りやめとなりました。

今後、奉納蹴鞠は、平成28年春、秋の2回実施した後、29年以降は毎年春、秋2回春日大社蹴鞠祭として奉納する予定。

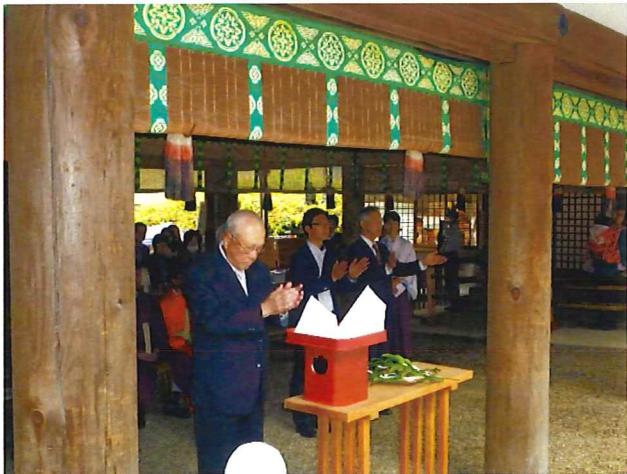
以下11月15日に実施された春日大社奉納蹴鞠の様子を写真で紹介いたします。



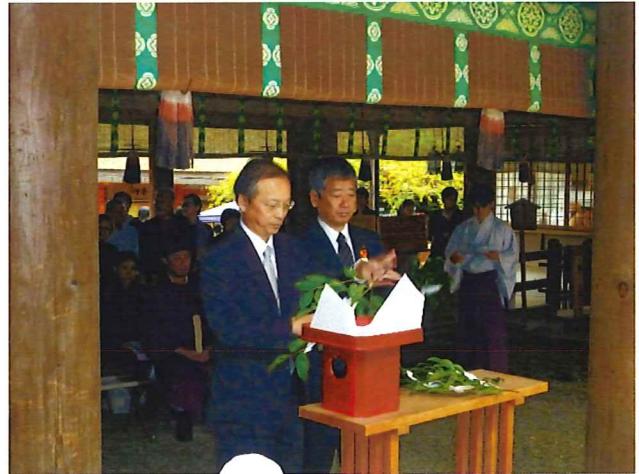
衣裳を整え、拝殿に向かう



厳かに正式参拝がとり行われる



主催者を代表して江並専務理事が拝礼



来賓を代表して、奈良県観光局長 福井義尚氏、
奈良市観光経済部長 川本了造氏が拝礼
(写真左から)



飯島正人さんの華麗
な奉納蹴鞠パフォー
マンスが行われる



2. 書の文化の伝承

◎第6回大仏書道大会「書くことは楽しい in 奈良」を開催

実施日 平成27年10月17日（土）～18日（日）

会場 東大寺大仏殿西回廊

【実施内容】

○全国の高等学校、大学より作品を募集し、入選作100点を展示

作品応募校 68校(1団体含む)

作品応募点数 1,434点

○大学生、高等学校生による席書会の実施

席書会参加者 25名



大仏様に作品を奉納する

従来の書道大会が教科書的な技術を競うのに対し、奈良21世紀フォーラムが主催する「大仏書道大会」は、基礎技術はもちろん大切な要素としながらも、書の文化の伝承のため、これから書の可能性を感じさせられるような自由な感性を重視するユニークな試みです。

平城遷都1300年記念の平成22年に始まった大仏書道大会も今年で6回目を迎えました。全国の高校、大学ならびに団体から1,434点もの応募がありました。

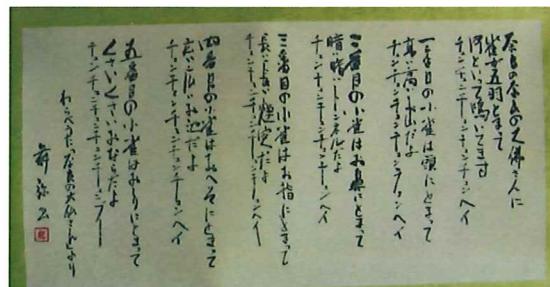
東大寺の森本公誠長老を審査委員長に迎えて100点の入選作品を選び、なかでも優れた7点を特別賞としました。

特別賞 7点

☆奈良県知事賞



☆奈良県教育長賞



☆奈良市長賞



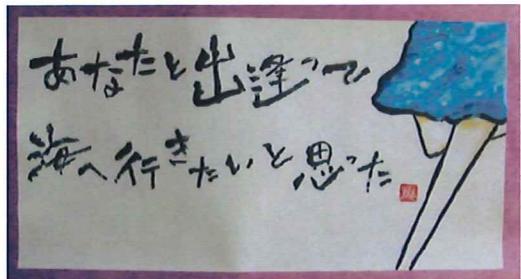
☆奈良市教育長賞



☆東大寺賞



☆朝日新聞社賞



審査会、展覧会、席書会風景



☆奈良 21世紀フォーラム理事長賞



◎特別賞受賞者

奈良県知事賞「釈迦」

草加高校（埼玉県草加市）萩原浩平さん

奈良県教育長賞「奈良の大仏さんのうた」

高田高校（奈良県大和高田市）林舞弥さん

奈良市長賞「風薰る」

新津南高校（新潟県新潟市）長谷川彩さん

奈良市教育長賞「ひとこと」

芥川高校（大阪府高槻市）京藤比奈乃さん

東大寺賞「大仏様の指先」

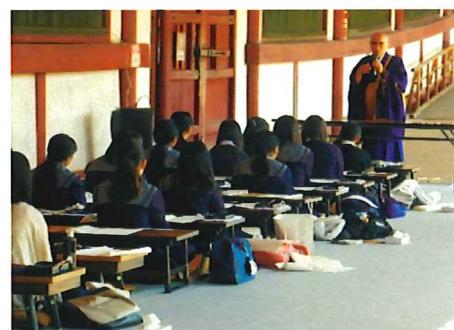
大阪市立工芸高校（大阪府大阪市）宮坂裕香さん

朝日新聞社賞「素直」

今宮高校（大阪府大阪市）高村しおりさん

奈良 21世紀フォーラム理事長賞「大丈夫」

奈良教育大学（奈良県奈良市）川脇知夏さん



入選作品 100 点は平成 27 年 10 月 17 日（土）から 18 日（日）の 2 日間、大仏殿西回廊で展示しました。両日ともに好天に恵まれ、国の内外・老若男女を問わず約 1300 名もの来場があり、多くの方が足を止めては熱心に見入っていました。

18 日には「席書会」を行いました。25 名の高校生・大学生が参加しました。

冒頭に森本長老から席書会参加者のうち、今回入選された方々に表彰状が授与されました。その後、大仏さまをめぐる遠大な思想について講話いただき、筆を取りました。華厳経のエッセンスである華厳唯心偈（百字心経）を写経し、自由題で創作作品を書き、大仏さまの前へ登壇して奉納しました。

3. 「奈良の歴史文化資源」の探訪

◎御杖村伊勢本街道宿場町ぶらぶら歩き

—倭姫命と四社神社秋祭り—

実施日 平成27年10月25日(日)

参加者 16名

近鉄八木駅から約1時間半で貸切バスは御杖村東部、神末にある御杖神社に到着。前には清らかな川が流れる。天を突く老杉群に覆われたさほど広くない境内には人影もなく、神秘的な空間だった。それもそのはず、ここは、天照大神をお祀りする場所を探し求めて旅をした倭姫命が候補地のしるしとして杖を置いたという伝承地。村人は神様の御杖とあがめてこの神社を造ったという話や、本来なら目に止めることのない本殿と拝殿の間にある石灯籠の銘文に「上津江村」とある理由など…講師のお話を伺った。

この日は昨日までの暖かさはなく、時折吹きつける冷たい風に上着の衿をかき集めながら、神社を後にし、バスは近くの道の駅に立ち寄り、地場の野菜などを購入。そして役場に隣接する食事処「にし川」へ。昼食はオリジナルの野菜寿司(黒米に水菜や山いもなどの地野菜を卷いたすし)にアマゴの塩焼きも香ばしい郷土料理をいただいた。

食事後、場所をお借りして講師より倭姫命についてや、豊鍬入姫命によって大和笠縫邑にお祀りした天照大神を、今度は倭姫命に託してなぜ安住の地を求めて転々としたなど、『日本書紀』からの記述より説明があり、また笠縫邑の比定地についての説明もうかがった。このことについては参加者から質問があり、関心度の高さをうかがい知ることができた。

お腹も一杯になり、頭のウォーミングアップもできたところで、いよいよ、今日一番の



御杖神社境内にて



中田講師の話を聴く(にし川にて)



伊勢本街道を行く



行燈が往時の面影を偲ばせる

目的である秋祭りが行われる四社神社へ向けて移動。役場や四社神社のある菅野は伊勢本街道の宿場町。江戸時代には大勢の人々で賑わったであろうこの旧街道もそのことを示す案内板と各家の前に吊り下げられた行燈だけが往時の面影をしのばせている。歩きながら、奈良から伊勢への道はこの本街道のほかにも伊勢北（表）街道や伊勢南街道が利用されたこと、そして伊勢参りの歴史や江戸時代のお伊勢参りには大きく分けて三つのパターンがあったことなどの話をうかがった。

歩みを進

めていくとこんもりと繁る森が見えたかと思うと同時に、「ピーヒヤララ」の笛の音が聞こえてきた。既に四社神社の拝殿前には人垣ができていて、祭りの出し物である獅子舞が始まっていた。みんなはそれぞれに見やすい場所を見つけて祭りを見物。次々と披露される獅子舞や笛や太鼓の音に誰かれとはなしに「懐かしい」の声が。子供の頃に見た秋祭りの光景がよみがえっていたようだ。



四社神社は、天照大神など四柱の神を祀り、御杖神社同様に倭姫命との関わりが伝わる。倭姫命は四社神社のある宮ノ本の地に泉を求め、湧き出る真澄な水で禊を行って天照大神を祀ったとの伝承があり、拝殿横にその井戸が残る。



最後のクライマックスは
「神楽道中お伊勢参り」

天照大神は倭姫命に連れられ結局は伊勢に遷宮されるが、伊勢に旅立つ倭姫命の道中の様子を祭りの最後で再現。女獅子と男獅子に扮した子供がそれぞれ大人の肩の上に立ち「神楽道中お伊勢参り」を舞った。両獅子は鈴と御幣、短刀と次々に物を持ち替えて、最後に男獅子は傘と扇、女獅子は手鏡を持ち化粧をする仕草をする。「お伊勢参りしてよオ～ 扇を拾うた～ ヨイセ～コリヤセ～」と観客が声を揃えて謡う「お伊勢参り音頭」が境内に響いた。観客からは小銭の入ったおひねりが飛び、拍手が沸き起こった。

心地好い余韻を残しながら、バスは一路八木駅へと向かった。(N.N記)

4. 奈良県企業の企業文化、企業風土の調査紹介

◇企業見学会

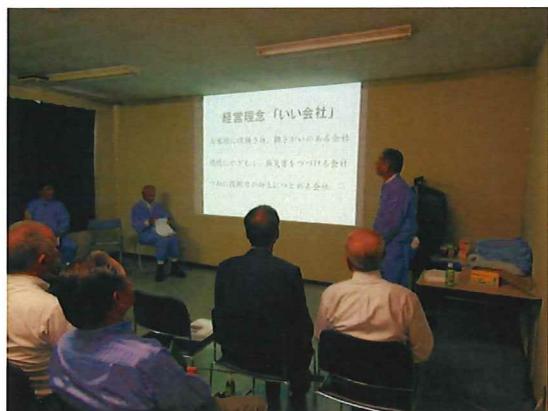
◎第一化工(株)会社見学会を開催

実施日 平成27年9月28日(月)

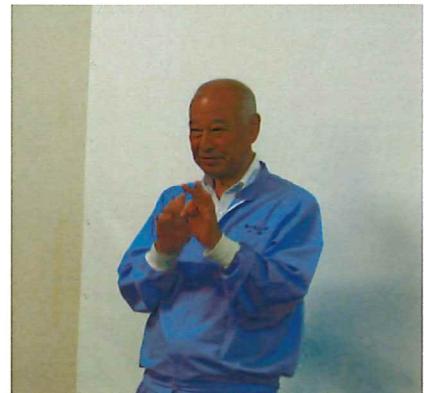
参加者 27名

9月28日、奈良市西九条町の第一化工本社・工場の見学会を開催致しました。

午前11時、第一化工本社会議室に参加者27名が集合し、最初に同社取締役会長の小西敏文氏から歓迎のご挨拶、



続いて三木茂生社長から会社の経営理念、会社概要について詳しく説明いただきました。



挨拶される小西会長

その後、3班に別れプラスチック製品の製造工程の見学を行いました。

わが国のプラスチックの本格的な工業化は1950年代から始まり以来60年余りを経ましたが金属製品と共に私たちの日常生活に欠かせない素材として製品化され家庭の隅々まで浸透しています。

同社は、1956年に積水化学工業(株)の協力会社として創業、プラスチック製品の加工、仕上げを行っていましたが、1960年代以降生え抜きの小西会長が主体となって最新の技術・機器を武器に販路拡大に邁進され大手メーカーへの納入実績を着実に積み上げてこられました。

私たちの身の回りにあって毎日手にするプラスチック製品の成形工程やボトルへの印刷、シール貼付等がどのように行われているのか、今回の見学会を通じて、製造現場を目の当たりにして、大変勉強になりました。また、事務所はもちろんのこと工場や倉庫が大変整理整頓され、清潔に保たれていることに感心すると同時に、同社の物づくりに対する真摯な取り組み姿勢を感じ取ることができました。



昼食後、同社の取引先でもある近畿セキスイハイム工業(株)の住まいのなるほど見聞館NARA・工場も併せて見学させて頂きました。

こちらも、住宅がどのようにして工場内で完成していくのか実際の製造工程を見ながら詳しく説明を頂きました。また大地震の揺れ等を体験できる施設なども有り、大変有意義な一日となりました。



◇奈良の風土産業 企業人列伝発刊状況（平成27年1月～12月）

- 第9号 柿の葉すし本舗たなか 社長 田中郁子（平成27年4月27日発行）
第10号 竹茗堂 左文 代表 久保昌城（平成27年9月28日発行）

※在庫が少々あります。希望者にお分けいたします。（実費）

5. 「吉野川の源流の水源地の森を守る活動」支援

◎和歌浦漁港朝市（おっとっと広場）しらすまつりに参加

本年度の「吉野川紀の川源流まつり」は、和歌山県和歌浦港で11月3日(文化の日)に開催のしらすまつりとジョイントして実施されました。

当フォーラムから江並専務、森下理事、中村事務局長の3名が参加しました。

今回のイベントは「吉野川紀の川ふれあいデー」と「吉野川紀の川源流まつり」をさらに発展させ、吉野川紀の川流域市町村で開催することを目指したものです。

当該流域の和歌山市、紀の川市、橋本市などから地元の物産が、多数出展、販売されました。奈良県の川上村では、かき餅、しいたけなどの物産販売の他、森と水の源流館では水源地の取組についてのPR活動を行いました。今後も川上村並びに源流館との連携を深め、「吉野川の源流の水源地の森を守る活動」の支援を続けてまいります。



追想

「ふる里川上村をこよなく愛された大辻康夫さん」

奈良 21 世紀フォーラム 監事 福嶋重博



「第 5 回全国源流サミット」受付にて
(平成 26 年 9 月 6 日、吉野郡川上村の川
上総合センター)

奈良 21 世紀フォーラムは、平成 12 年に特定非営利活動法人の認証を得、その頃より事務所への人の出入りも多くなりましたが、奈良県サッカー協会へ大柄でダンディな年輩の方が訪ねて来られました。その人こそ大辻康夫さんでした。当時、奈良 21 世紀フォーラムと奈良県サッカー協会は、現理事長の堀井さんと私（当時奈良県サッカー協会会长）との中学校の同輩で共通の友人である橋本和信さん（故人）所有のビルの一室を各々事務所として使用させて頂いておりました。

大辻さんは、自ら創業された(株)伸和エージェンシーを退かれ時で、当時の石橋毅一理事長から奈良 21 世紀フォーラムを手伝ってほしいと依頼さ

れ事務所に来られるようになったのです。サッカー協会にはパートの女性職員がいましたが、私も含め 3 人で昼食をとる機会が多くなり、大辻さんには世間話しあつたようですが、私にとっては卓話を拝聴する気持ちでした。

少し紹介させて頂きますと、大辻さんには人生の師が二人おられ、一人は大学卒業後に勤められた東映(株)の大川博社長、もう一人は 52 歳で(株)伸和エージェンシーを創業された際に様々助言を受けた大和ハウス(株)創業者の石橋信夫社長です。支えられ、守られ、生かされ今の自分があるとよく話されました。交遊・永ちゃん（永六輔さん）は、これからは借りた恩を返していきたいとボランティアで各地に赴いているが、自分もそのようにありたいと常に言われていました。

そのような中、フォーラムでは会員募集と並行して事業活動の企画立案、そして一部事業の展開が始まりました。大辻さんの人徳でしょうか。東映の O B 会、大和ハウスグループ協力会の方々が会員として事業の展開に協力して下さり「樹と人と水の共生、源流保全事業」が緒に着きました。平成 12 年、川上村は森林が荒廃し始め水源渓流の機能低下を危惧し、私有林を公費で買い水源林の保護に乗り出しました。フォーラムは水源の保護運動の推進を事業とし、平成 13 年 8 月石橋理事長他 9 名は川上村のイベントに協賛して、吉野川の源流視察に参加、翌 14 年 4 月 29 日「森と水の源流館」がオープンし、会員 11 名が前日から式典等の準備に参加しました。当日は

テープならぬ、蔓（つる）カットを行いましたが、フォーラムを代表してサッカー協会女子職員が当時の大谷川上村村長と共に行ったことが記憶に残ります。その間も、大辻さんは一連のイベント展開、運営の裏方に徹しておられました。

東映OB会の恒例行事・川上村高原河原バーベキューに誘われて一緒させても頂きました。高原地区は大辻さんの生家がある地です。姪ご夫妻、地域の皆様のご厚意により地産地消、山菜、川魚をバーベキュータイプで頂きましたが、イタドリの煮物の美味しさは今も（そのまま残っています）忘れられません。渓谷の景色、新緑の新鮮な空気も食に味を添え、どの料理も従来のイメージを超えた美味しいものばかりでした。その後、この行事は「大和の食文化のルーツを訪ねる」とのフォーラム、東映OB会の合同事業に発展しました。

更に、「万葉蹴鞠の復元」事業では蹴鞠製作委員会を設けて取り組みましたが、大辻さんは委員の猪熊兼勝先生と昵懃であり、又「蹴鞠の研究」で知られる東京大学名誉教授の渡辺融先生の委員会出席にご高配を頂くなど会合の開催に何かと気配りを頂きました。

（余談ですが、大和ハウスがホテル業に進出した際、大辻さんは能登ロイヤルホテル（株）取締役に就任、ホテルの開業に携わられ、その数々の企画イベントは好評で定着しているので、今度一緒に行かないかと蹴鞠製作委員の県サッカー関係者を誘って下さいました。いつも親分肌で、後輩を気遣って下さる懐の深さは余人には中々真似の出来るものではありません）



大辻氏ご夫妻と（長岳寺庫裡にて）

又、2002年日韓共催W杯一周年記念の日韓戦がソウルで行われるので観戦の準備をしていた際、大辻さんはソウルで親交のあるロータリアンに連絡をとられ滞在中のスケジュールを立てて下さり、ソウル市内を案内して下さいました。他にも大辻さんに誘われて始めた陶芸教室、大辻さんのライフワークであった俳句では拙宅の近く黒塚古墳、長岳寺での山の辺灯り柳灯会、千灯会にご夫婦をご案内させて頂きましたが、後日はその際の俳句を添えた札状を頂きました。

暮れかけの月鐘楼に昇り初む（康夫）

大辻さんにご交誼頂いた15年は、詩人サミエル・ウルマンの青春そのものでした。
大辻康夫さん、ありがとうございました。

2016年1月発行

編集 足立伸之助、中村優造

発行 NPO法人 奈良二十一世紀フォーラム

〒630-8244 奈良市三条町 511-3 奈良交通第2ビル